

4. 出展基本方針

4-1. 屋内出展基本方針

■北京園芸博覧会の概要

北京園芸博覧会は、平成 31 年（2019 年）4 月 29 日から 10 月 7 日までの 162 日間、「緑の生活、より良い生活（Live Green, Live Better）」をテーマに中国北京市郊外で開催される。約 100 か国・機関の参加と約 1,600 万人の入場者（うち 20% は海外から）が見込まれている。

我が国は、博覧会会場の世界園芸展示区の中にある 2,550m² の区画で屋内展示と屋外展示（日本庭園）を調和のとれた一体となるよう行うこととしている。

■日本の花きをめぐる状況

（1）多様で高品質な花き

我が国の多様で高品質な花きは、これまでの国際園芸博覧会のコンテストで多くの賞を受賞するなど国際的に高い評価を得ている。

また、四季のはっきりした自然に対する畏敬の念と感謝の気持ちをあわせ持つ日本人の自然観は、生け花や盆栽、門松等の世界に誇る豊かな花きの文化を育んできた。

（2）花き産業

我が国の花き産業は、農業の担い手の確保を図る上で重要な地位を占めるとともに、花きに関する伝統と文化は国民の生活に深く浸透し、国民の心豊かな生活の実現に重要な役割を担っている。「花きの振興に関する法律」（平成 26 年法律第 102 号）は、花き産業及び花きの文化の振興に関する基本方針の策定とともに、輸出の促進、博覧会への出展等に対する支援について規定している。

農林水産業の輸出力強化戦略の一環として、平成 31 年（2019 年）の花き輸出額 150 億円

を目標として取り組んでいる。こうした中、博覧会に日本の多様で高品質な花きを展示し、輸出促進につなげようとするものである。

■出展の基本的考え方

我が国の多様で高品質な花き、そして奥行きのある花き文化を中国をはじめ世界に向けて発信することで以下の実現を図る。

（1）輸出拡大と産業振興

国産花きの輸出拡大と我が国花き産業の振興を図るため、花き関係団体や関係省庁等と連携を図って取り組む。

（2）日本への関心に応える

外国から日本への訪問客に関しては中国からが最も多く、さらに、訪れたい国の一位となるなど日本に対する関心は高い。より多くの来場者を達成するためには、今の日本の生活の様々な場面を演出している日本の花きと花き文化を表現する。

（3）被災地復興支援への感謝

東日本大震災の被災地で生産された花きの展示や現地での花育の様子などを伝えることにより、被災地の復興と支援に対する感謝を示す。

■屋内出展のテーマ

開催主体と来場者に我が国のメッセージを伝える屋内出展のテーマは、次の視点から検討する。

ア) 博覧会テーマである「緑の生活、より良い生活（Live Green, Live Better）」、日本庭園を含む日本政府出展のテーマ「Japanese Green Lifestyle」との関係性

イ) 我が国の花き産業・花きの文化の特徴や魅力が表現されるとともに、入場者を引きつける力

ウ) その他に考慮すべき視点の例

- 日本の生活の様々な場面を演出している花きの多様性

- 環境に優しく持続的な園芸技術

- 花や緑に親しみ、情操を育む「花育」

■展示・催事等の内容と方法

（１）展示

- ・日本の豊かな四季を活かした展示とする。
- ・企画展示（地方公共団体、園芸関連団体、民間企業等が参加）ではそれぞれの特色を活かした展示とするとともに、屋内展示全体では屋内出展のテーマの下で統一感のある展示とする。
- ・実物や写真、映像等の様々な媒体の活用、「発見」と「体験」、花き以外の我が国の文化と関連づけた演出等により来場者の記憶に残る工夫を行う。
- ・展示花きの品質管理などのため専門スタッフを配置する。
- ・展示品の知的財産権に配慮する。

（２）商業的活動

中国におけるビジネス展開の参考となる取り組みを行う。

- ・商業スペースの確保とキャッシュレス決済の導入
- ・商談スペースの確保や受付で収集したバイヤー情報等の出展者への還元
- ・我が国と中国の花き業界の関係強化とビジネス拡大を目的とする意見交換会の開催

（３）催事

- ・開会式、閉会式、ナショナルデーでは、生け花、茶道などにより日本の花き文化を演出することで、来場者の記憶に残る工夫を検討する。
- ・両国の花きと花き文化についての意見交換、日本の伝統的な花き等の文化を広く紹介するプログラムを実施する。
- ・現地の日本人コミュニティにボランティア参加などの協力を求める。

■広報、啓発活動

雑誌などの紙媒体、ウェブサイト、SNS 等の双方向メディアなど多様な媒体を活用して日本の出展、日本の花き・花き文化を広く PR する。

（１）会期前

出展者の地元を含む国内向け広報とともに、中国語と英語での広報を実施する。

（２）会期中

日本の展示・催事の様子、現地でのトピックス、品種コンテストの結果等を積極的に広報する。

インフォメーションカウンターの設置、専門スタッフの配置により積極的な情報提供を行う。

（３）会期後

コンテスト受賞品種等を広報する。

■花き業界の活性化と若手の育成

我が国から近く、我が国の花きの輸出額の半分を占める中国での開催であり、花きの育種、生産、流通、販売、文化等の各分野が企画展示、品種コンテストや催事への参加、専門スタッフの派遣などの様々な形で協力することで、花き業界全体の国際化と振興につなげる。

また、将来の花き業界を担う若手の育成と交流の場を提供する。

（平成 30 年 9 月 10 日公表）

4-2. 屋外出展基本方針

日本国出展では、Japanese Green Lifestyleという出展テーマのもと、自然に関する畏敬の念と、自然に対する感謝の念をあわせもった日本人の自然観をふまえつつ、伝統的な園芸技術、花文化や日本庭園技法と最先端の環境技術を融合させた、日本の成熟したライフスタイルを、日本庭園、並びに日本展示館とそこでの展示が一体となって、すなわち「庭屋一如」のコンセプトのもとで伝統と新しい技術が融合した日本の園芸文化により表現することとした。

日本国出展の入口では、地元の薄い石を利用して日本の庭師が石組みを施し、その上に金閣寺垣や春日灯籠を設け、日本国出展の存在を印象づけている。中に入ると日本庭園が広がっている。この日本庭園は中央に池を配置する「池泉式」の様式と、遠方の山並みを取り込む「借景」という庭園技法を用い、深山幽谷から流れ出た水が三段の滝を経て海を見立てた池へと注ぐ自然風景を表現している。庭園東側には、日本展示館を茶室と見立てて石灯籠や蹲を配置し、日本のおもてなし文化の一つとなる「露地」を設けた。

特に地元で調達した「白石」と「建物の定礎石」を材料とすることで地元への尊敬の念を表現している。池には、ごろた石を敷き詰め、水際を意識させない作りとし、長岡市の協力の下、錦鯉の発祥の地である長岡・小千谷から送られた錦鯉38匹が放たれた。なお、日本庭園と建物は博覧会終了後寄附をして保存されることから、寒冷な当地の気候を考慮し、冬に水を抜いても鑑賞できるデザインとした。

■基本方針

(1) 屋外展示

日本庭園は、中央に池を配置する「池泉（ちせん）式」の様式と、遠方の山並みを取り込む「借

景」という古来からの庭園技法を用い、深山幽谷から流れ出た水が三段の滝を経て池へと注ぐ自然風景を、石組みや植栽などの伝統的造園技術を駆使して表現とする。庭園東側には、日本展示館を茶室と見立てて石灯籠や蹲を配置し、日本のおもてなし文化の一つとなる「露地」を設ける。

(2) 管理運営体制

日本国出展エリアに、庭園整備・維持管理事業者及び屋内出展担当事業者で構成する現地事務所を設置し、博覧会事務局との連絡調整や、展示運営、接遇対応等を実施する。また、日本庭園の技術を紹介する催事を実施する。

(3) 維持管理計画

日々の巡視、清掃等の実施により、清潔かつ安全な展示状態を維持するとともに、樹木等の枯損や施設の破損等の早急な発見に努める。日本庭園の利用に支障が生じるような場合は、庭園維持管理事業者により適切な処置を講じることとする。樹木等の管理（枯損木の除去・花きの入れ替え等）及び施設補修等を適宜実施することで、良好な展示状態を維持する。

(4) 安全管理計画

日本国出展エリアには、会期中、約1,600万人の来訪者により相当の混雑があるものと見込まれている。また、記念撮影などによる滞留にも配慮する必要がある。このため、屋外・屋内展示を円滑に鑑賞できるよう、来訪者の入込状況に応じて、展示鑑賞に混乱が生じないよう、適切な整理・誘導、並びに、支障のない範囲で、立ち入り禁止区域設置等の規制措置を図る。

(5) 寄贈

中国政府側に寄贈を行う際、博覧会後も持続的な維持管理がなされるよう、維持管理マニュアルを作成するとともに、必要に応じて庭園の補修を行った上で寄贈を行う。